

日本医学会分科会活動報告

学会名(No.105)日本血管外科学会

代表者名 理事長 東信良

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

学術総会・地方会の開催、学会誌・ニュースレターの発行、心臓血管外科門医の認定、データベースに基づいた学会主導の研究事業（破裂 AAA 症例、JCLIMB、感染性腹部大動脈・総腸骨動脈瘤の治療と予後、膝窩動脈捕捉症候群の術式と予後）、NCD データを利用した血管外科領域新規研究課題の公募、血管外科領域のセミナーおよび 3 つのワークショップ、心臓血管外科サマースクール開催があげられる。

b. 当該領域における国際的な役割

学術総会でのインターナショナルセッション開催、全世界の血管外科医に向けたワークショップ開催の他、アジア血管外科学会開催の協力、日独血管外科学会、日韓血管外科学会を 4 年に 1 度開催し、海外の学会との交流を図っている。また、関連 3 学会合同で英文雑誌を発行するとともに、a で挙げた研究に関する論文を英文雑誌に投稿し掲載された
また、アメリカ血管外科学会との交流、ヨーロッパ血管外科学会との提携することにより、多くの日本人血管外科医が海外学会で発表する機会を得ている。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

血管外科学の学術研究及び臨床を通して、血管外科学の進歩と普及に貢献し、学術文化の発展と国民の医療福祉に寄与する。

d. 学会運営上留意している点

大血管、末梢動脈、静脈疾患、基礎研究など血管外科領域に関連した内容を取り上げ、CVIT や日本循環器学会、日本フットケア・足病医学会など関連学会などとの合同シンポジウムも開催している。

II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい.

1. 専門医および施設の認定

日本心臓血管外科学会および胸部外科学会との連携により心臓血管外科専門医の認定および施設認定をしている。

2. 英文雑誌の発行

関連3学会（日本血管外科学会、日本脈管学会、日本静脈学会）にて英文雑誌「Annals of Vascular Diseases」を年4回発行

3. 若手医師を対象としたサマースクール

日本心臓血管外科学会、日本胸部外科学会と協力し「心臓血管外科サマースクール」を開催している。

4. 学術集会でのジョイントセッション

日本心臓血管インターベンション治療学会、日本循環器学会、日本フットケア・足病医学会などお互いの学術総会において、ジョイントセッションを開催している。

5. 各種デバイスの適正使用指針策定

関連学会と協議会を構成し、デバイスの適正導入・適性使用に関する指針及びガイドンスを策定している

6. 医療安全調査の支援

日本医療安全調査機構や、施設からの医療事故調査依頼に対し、部会員を派遣